平成 22 年度の重点実施具体策

全農岡山県本部　畜産部

県内農業の現場では、就農人口の減少および高齢化の進展により、農地面積の縮小や耕作放棄地の増加など農業生産基盤の弱体化が進行しています。世界的な食料増産の必要性を背景に、肥料・飼料原料は争奪戦の様相を呈しており、石油も含めた原料相場は高値基調で推移しています。農政面では、戸別所得補償制度の導入検討やＷＴＯ・ＦＴＡ交渉が今後一気に動き出す可能性があるなど新たな対応の局面に立たされています。

消費者動向を見ると、健康・低価格志向は一層強まっており、安全・安心かつ安価な食品を求めるニーズとデフレ経済の進行とが相まって、農畜産物価格は低迷しています。大手量販店・異業種企業は、生産者組織の囲い込みや自ら農業生産に進出するなど農業ビジネスへの参入を加速化しています。

こうした状況への対応として、“変革・創造・実践”をモットーに、「県内産農畜産物の販売力強化」を最重点課題と位置づけ、既存取引先への販売拡大、県内産の消費拡大対策などに加え、直接販売や産地と実需者を結び付けた生産から販売までの一貫した事業方式の拡大・転換をすすめます。営農・購買事業での生産基盤維持・拡大に向けた生産コストの低減、購買品目の取扱強化によるシェア拡大をはかり、間接的に販売力強化に貢献します。

１．生産基盤の維持・拡大対策

（１）稲わら・飼料用米の利活用促進による耕畜連携事業の拡大と自給率の向　上に取組みます。

（２）ＪＡ西日本くみあい飼料㈱と連携し、農家への技術指導を強化し生産成績の改善等生産性向上とコスト低減対策の強化と生産基盤の維持拡充を図ります。

（３）受精卵移植技術の活用、中核農家の増頭、新規参入者の育成等による和牛繁殖基盤の維持拡大に取組みます。

（４）ＪＡ・県・関係団体で組織した「岡山和牛子牛資質向上対策協議会」を中心に、和牛子牛資質向上運動を強化す　るとともに、岡山和牛のブランド化の促進を図ります。

２．総合家畜市場の活性化対策

（１）推奨子牛「おかやま四つ☆子牛」の表示販売を継続実施するとともに、県内外の新規購買者へのＰＲ・誘致に努めます。

（２）ＩＶＦ・ＥＴ産子の取扱拡大に取組むとともに、県内外の顧客への積極的な集畜と購買誘致活動等販売対策を強化します。

（３）中四国の拠点市場として、市場の機能強化による広域集畜の強化や購買者ニーズに対応した市場運営に努め、市場運営の活性化に取組みます。

３．販売事業の強化

（１）生協・量販店・外食など多元チャネルでの販売を強化し、生産と販売が一体化した産直型販売や地産地消型取引の強化拡大に取組みます。

（２）「安心・安全で美味しい岡山産」をモットーに、多元的な営業を展開するとともに、ＪＡ・生産農場と連携を取り生販一体の事業の拡充とＪＡブランドづくりに努めます。

（３）取引先の信頼・満足度の向上を図るため、ミートセンター･ＧＰセンターのISO9001認証の継続的な運用管理を強化し、機能の充実と確実な運営管理に努めます。

４．事業体制の構築

（１）ＪＡグループ・関係団体等と一体的・効率的な事業体制を構築し、畜産農家の経営改善と畜産生産基盤の拡充を図ります。